

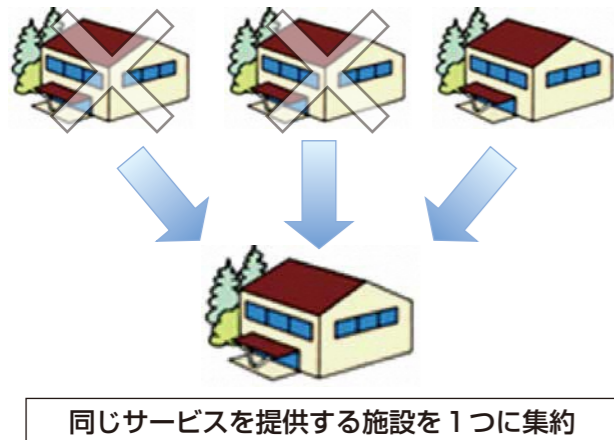
図1 適正で効率的な維持管理と長寿命化



このような問題に対応するため、平成28年度に「公共施設等総合管理計画」を策定し、将来にわたって人口規模や市民ニーズに適合したサービス継続に向け「質」「量」「コスト」の3つの視点から公共施設のあり方を見直しています。

公共施設のあり方を見直し

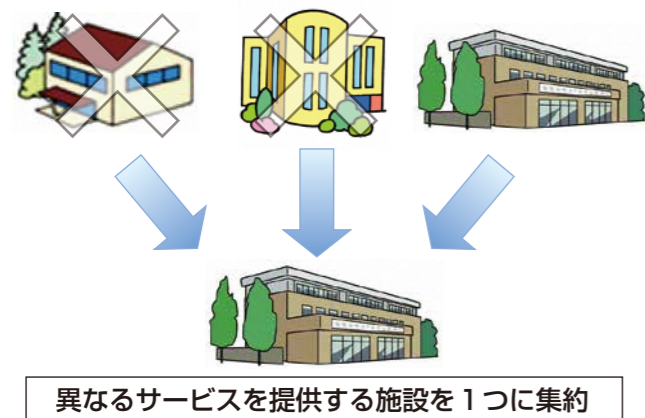
図2 統合のイメージ



①「質」  
今後も使用を続ける施設は、日常点検や定期診断により適正で効率的な維持管理を行うとともに、計画的に改修を行い施設の長寿命化を進めます(図1)。

②「量」  
使わなくなった古い施設の除去、同じサービスを提供する複数の施設を1つの施設に統合(図2)や、

図3 複合化のイメージ



異なるサービスを提供する施設を1つの施設に複合化(図3)など、施設の再配置を検討し、施設の総量(延床面積)を縮減します。

③「コスト」  
効率的な運営管理による経費縮減や施設使用料の見直し、民間活力の活用を推進します。また利用されていない施設の賃貸、売却などにより、財源の確保


このように3つの視点から施設ごとに将来の施設のあり方を見直しながら策定する再配置方針(案)を、市民の皆様にご覧いただき、意見を伺います。その後、令和2年度中に公共施設の再配置計画を策定する予定です。

に努めます。

三木市のホームページから施設カルテや公共施設等総合管理計画がご覧いただけます。市役所3階情報公開コーナーでもご覧いただけます。

**施設カルテを公表しています。**


建物の面積や築年数、利用状況、収支情報などがご覧いただけます。



三木市 施設カルテ

**公共施設等総合管理計画を公表しています。**

公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な計画がご覧いただけます。



三木市 公共施設等総合管理計画

# シリーズ 次世代のために考える 公共施設

～③人口規模や市民ニーズに適合した公共施設とは～

現在保有している施設をすべて持ち続けた場合、市民1人あたりの負担は現在の3倍に上る可能性があります。将来に必要な公共施設のあり方について考えます。

問(市)財政課 公共施設マネジメント係

公共施設を取り巻く問題

近年、全国の自治体が高度経済成長期に集中的に整備した学校、集会施設、公営住宅などの多くの公共施設の更新問題への対応を迫られています。

広報みき10月号では、1970～80年代にかけて集中的に整備した公共施設が、今後一斉に老朽化し、大規模改修や建て替えなどの更新に多額の費用が必要になること、人口は減少に転じている一方で施設数は増加していることを紹介しました。

12月号では、少子高齢化対策で社会保障費の支出が増加し続けるなか働き手の減少などで税収入が伸びず、公共施設の維持更新に必要な財源の確保が大きな課題であることを紹介しました。

今後40年間の更新費用は  
1,252億円

現在、市が保有している施設すべてを更新する場合に必要な費用

費用を試算しました。

今後40年間の更新費用は大規模改修に43.9億円、建て替えに81.3億円、総額1,252億円が必要であるという見込みになりました。1年あたりの平均額にすると31億3千万円になります。

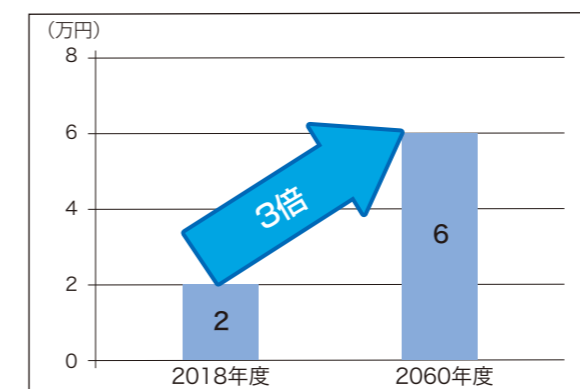
毎年16億7千万円の不足

三木市は過去5年間(2014～18年度)、施設の改修や新規施設の整備に年平均14億6千万円を支出してきました。

今後40年間の更新費用の年平均額31億3千万円から、直近5年間の更新費用の年平均額14億6千万円を差し引くと、毎年16億7千万円が不足することになります(グラフ1)。

このまま施設を維持し続けると、40年後には市民一人あたりの負担が2万円から、6万円と3倍に増えてしまうことになります(グラフ2)。

グラフ2 市民一人あたりの費用負担の比較



グラフ1 過去5年間の更新費用の年平均額と今後40年間の更新費用の年平均額の比較

